

## 血清アルブミンについて

血清アルブミンは、内臓タンパク質量をよく反映するため、栄養状態の指標として広く用いられていますが、低栄養以外の因子により、適切な栄養管理によっても低アルブミン血症が改善されない病態も存在します。

最近では、血清アルブミンは摂取エネルギーとの相関はなく、むしろ炎症サイトカインによって影響を受けると報告されており、現在の栄養治療が適切であるかどうかの指標というより、今後栄養不良に陥りやすい低栄養リスクの指標とされています。

## 低アルブミン血症を認めたら、確認しよう！

- 急激な低下はないか？・・・脱水の補正、出血
- タンパク質摂取不足はないか？・・・  
食欲不振による摂取量の低下・嘔吐・下痢が2週間ほど続いた状態
- 水分不足や高血糖脱水により見かけ上、高めになってないか？
- 明らかなマラスムス、セロファン様の浮腫はないか？・・・  
エネルギー・タンパク質不足のマラスムスでは、アルブミンが低下しないことがある・  
タンパク質不足ではセロファン様の皮膚
- 浮腫を伴う疾患はないか？・・・ネフローゼ症候群・肝硬変・肝不全・甲状腺機能亢進症・  
タンパク漏出性胃腸炎・重度の褥瘡
- 炎症反応（CRPなど）が異常に高くないか？
- 高血糖による利用障害はないか？・・・体タンパクがエネルギーとして利用される
- 侵襲の大きい手術の影響はないか？・・・手術による侵襲やストレス、出血の有無
- 半減期に配慮しながら読んでいるか？・・・半減期は約21日

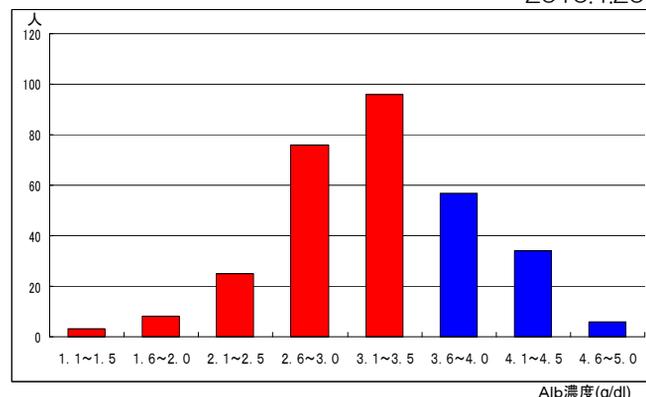
当院入院中、アルブミン値測定された患者305名の最新のアルブミン値の分布です。

3.5g/dl以下の患者は68%でした。

その他の検査や栄養摂取量、疾患等と合わせ、総合的にアセスメントし、低栄養を見極めましょう。

栄養管理が必要かな？と感じた際にはNSTへの介入依頼をお願いします。

臨床検査技師 田邊



お知らせ

**第1回院内NST勉強会(栄養障害のスクリーニング・評価、身体計測)**  
**6月2日(水)17:00～ 3階講堂**